

梅本和泰 教授 略歴・業績目録

梅本和泰 教授 略歴

略歴

1942年10月	名古屋市に生まれる
1968年3月	近畿大学理工学部応用化学科卒業
1971年3月	近畿大学大学院化学研究科修士課程修了
1971年4月	名古屋学院大学経済学部助手
1974年4月	名古屋学院大学経済学部講師
1977年4月	名古屋学院大学経済学部助教授
1979年3月	工学博士（論文）学位取得（近畿大学）
1983年4月	西ドイツ・ベルリン工科大学有機化学研究所客員研究員（1984年3月まで）
1985年4月	名古屋学院大学経済学部教授
1988年9月	大学設置審議会教員組織審査判定（名古屋学院大学，専任教授，化学）
1991年12月	大学設置審議会教員組織審査判定（名古屋学院大学，専任教授，化学）
1992年4月	名古屋学院大学産業科学研究所所長（1995年3月まで）
1997年7月	名古屋学院大学評議員（2000年7月まで）
2006年7月	名古屋学院大学評議員（2009年7月まで）
2013年3月	名古屋学院大学を定年退職
2013年4月	名古屋学院大学非常勤講師（現在に至る）
2013年4月	名古屋学院大学名誉教授

所属学会等

1969年4月	日本化学会会員（現在に至る）
1971年11月	日本農芸化学会会員（現在に至る）
1972年1月	日本香料協会会員（現在に至る）
1974年3月	日本薬学会会員（現在に至る）
1994年1月	日本油化学会会員（現在に至る）
2005年11月	日本化学会 香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会幹事（現在に至る）

主要業績目録

著書

- 『化学—資源・エネルギー・環境—』単著 プレックス1989.4
『エネルギー文明のゆくえ』単著 プレックス1994.4

『香りと暮らし』共著 裳華房1994.7, pp. 42-60, 84-89.

『ハッカ属植物の自殖株の精油成分』単著 名古屋学院大学産業科学研究所研究叢書18, 2000.3

学術論文

「モノ、ジおよびトリクロルベンゼンの置換塩素化における異性体生成比」共著『科学と工業』45巻9号 456-460 (1971).

「タムシバ *Magnolia salicifolia* Maxim. の精油について」共著『香料』98号45-50 (1971).

「ゲラニオールの利用に関する研究 (その1) —プソイドヨノンの合成—」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』8巻2号75-98 (1972).

「ゲラニオールの利用に関する研究 (その2) —プソイドメチルヨノンの合成—」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』9巻1号9-28 (1972).

「ゲラニオールの利用に関する研究 (その3) —リナロールの合成—」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』9巻2号19-32 (1973).

「ゲラニオールの利用に関する研究 (その4) —イソブチルゲラニルアミドの合成—」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』10巻1号1-17 (1973).

「*Mentha gentilis* L. の精油から単離した *d*-1, 2-エポキシメントールの同定について」共著『日本農芸化学会誌』48巻1号39-42 (1974).

「東海地方の野生ハッカに関する研究 (第4報) 1, 2-エポキシ酢酸メンチルを含有する *Mentha gentilis* L. の精油成分について」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』10巻2号1-16 (1974).

「東海地方の野生ハッカに関する研究 (第5報) *Mentha gentilis* L. の精油から単離した新テルペンペンアルコールの絶対構造と立体配座について」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』11巻1号17-34 (1974).

「*Mentha gentilis* L. の精油から単離した新テルペンアルコールの絶対構造と立体配座について」共著『日本農芸化学会誌』48巻8号467-472 (1974).

「オランダハッカ油の特異臭成分について」共著『香料』108号45-50 (1974).

「ゲラニオールの利用に関する研究 (その5) ゲラニオールとアセトアルデヒドの反応について」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』11巻2号171-178 (1975).

“(−)-1*R*-8-Hydroxy-4-*p*-menthen-3-one Isolated from Essential Oil of *Mentha gentilis* L.” 共著『*Agricultural and Biological Chemistry*』Vol. 39, No2, 553-554 (1975).

「(+)-プレゴンを主成分とする *Mentha gentilis* L. の精油中の新テルペンアルコールについて」共著『日本農芸化学会誌』49巻4号217-221 (1975).

「東海地方の野生ハッカに関する研究 (第6報) — (+)-プレゴンを主成分とする *Mentha gentilis* (L.) の精油について—」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』12巻1号217-230 (1975).

「(+)-ネオメントールを主要成分とする *Mentha gentilis* L. の精油について」共著『日本農芸化学会誌』49巻9号491-493 (1975).

“¹H NMR Solvent Shifts Induced by Hexafluorobenzene in Monoterpenes” 共著『*Tetrahedron Letters*』Vol.

1975, No. 26, 2199-2202.

“Absolute Configuration of (+)-1-Acetoxy-*p*-menth-3-one Isolated from Essential Oil of *Mentha gentilis* L.” 共著『*Agricultural and Biological Chemistry*』Vol. 39, No. 10, 2083-2084 (1975).

“Studies on the Wild Mints of Tokai Districts (VII) Isolation and Absolute Configuration of (+)-1-Acetoxy-*p*-menth-3-one from Essential Oil of *Mentha gentilis* L.” 共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』12巻2号117-131 (1976).

「(+)-メントフランを主要成分とする野生ハッカの精油」共著『日本農芸化学会誌』50巻6号291-293 (1976).

「冬季に育成するオランダハッカ (*Mentha spicata* L. var. *crispa* Benth.) の精油」共著『日本農芸化学会誌』50巻6号287-289 (1976).

「(+)-ピペリトンの主成分とする *Mentha gentilis* L. の精油」共著『日本農芸化学会誌』50巻8号381-383 (1976).

「*Mentha gentilis* L. の精油から (+)-1-アセトキシ-*p*-メンタ-3-オンの単離と絶対構造」共著『日本農芸化学会誌』51巻2号81-85 (1977).

「*Mentha gentilis* L. の精油から単離した新モノテルペンジオールの立体構造」共著『日本農芸化学会誌』51巻4号245-251 (1977).

“Studies on the Wild Mints of Tokai Districts (VIII) Occurrence of (+)-1, 2-Epoxyneomenthyl Acetate in Japanese *Mentha rotundifolia* L.” 共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』13巻2号99-101 (1977).

「1-アセトキシメントンを含有する *Mentha gentilis* L. の精油」共著『日本農芸化学会誌』51巻11号659-661 (1977).

「ハッカ属植物精油の成分に関する研究」博士学位論文 近畿大学(工学博士, 工乙第九号)1-103 (1978).

「(-)-ピノカルベオール主成分型のアリタソウの精油」『日本農芸化学会誌』52巻3号149-150 (1978).

「プレゴン-メントン-ネオメントール成分型の *Mentha gentilis* L. の精油」共著『日本農芸化学会誌』52巻3号191-193 (1978).

「ゲラニオールとチトロネロール混合原料よりプソイド・ヨノンの合成について」共著『近畿大学理工学部研究報告』14号33-37 (1978).

「プレゴン-8-ヒドロキシ-3-*p*-メンテン成分型の *Mentha gentilis* L. の精油」共著『日本農芸化学会誌』53巻8号269-271 (1979).

「東海地方の野生ハッカに関する研究(第9報)—*Mentha gentilis* L. の精油から単離した新*p*-メンテンジオールの立体構造—」共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』16巻1号83-95 (1979).

「東海地方の野生ハッカに関する研究(第10報)—オランダハッカの精油成分—」共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』17巻1号139-153 (1980).

「東海地方の野生ハッカに関する研究(第11報)—(+)-プレゴンを主成分とする *Mentha gentilis* L. の精油(その2)—」共著『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』18巻2号71-83 (1982).

「東海地方の野生ハッカに関する研究(第12報)プレゴン-メントフラン系野生ハッカの精油」『名古屋学院大学論集(人文・自然科学篇)』19巻2号79-86 (1982).

- “Seven Sesquiterpene Lactones from *Ferreyanthus* Species” 共著『*Phytochemistry*』Vol. 23, No. 81, 1669–1672 (1984)
- “New Sesquiterpenes from *Liabum Floribudum*” 共著『*Phytochemistry*』Vol. 23, No. 8, 1800–1802 (1984)
- “Structures of New Sesquiterpene Lactones Isolated from *Stevia isomeca*”『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』22巻1号1–13（1985）.
- “New Sesquiterpene Lactones Isolated from *Ferreyanthus* and *Liabum* Species”『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』23巻1号21–35（1986）.
- 「各種ハッカ属植物の精油成分と種の系統分類」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』23巻2号7–36（1987）.
- 「Piperitenone oxide, Piperitone oxideを主要成分とする *Mentha arvensis*」共著『日本農芸化学会誌』62巻7号1073–1076（1988）.
- 「ハッカ属植物の精油成分と種の系統分類（その2）」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』24巻2号9–49（1988）.
- 「数種の柿の葉の揮発成分」共著『日本農芸化学会誌』63巻2号181–184（1989）.
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の精油成分」『名古屋学院大学研究年報』2号229–259（1989）.
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の成分的変種」共著『日本農芸化学会誌』64巻9号1467–1469（1990）.
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の成分的変種（その2）」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』27巻2号81–91（1991）.
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の成分的変種（その2）」共著『日本農芸化学会誌』65巻11号1647–1650（1991）.
- 「ヒメハッカ (*Mentha japonica* Makino) の自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』29巻1号1–12（1992）.
- 「酢酸メンチルを主成分とする野生ハッカ *Mentha gentilis* の精油」『名古屋学院大学研究年報』5号153–160（1992）.
- 「セスキテルペンアルコール成分系ミズハッカ (*Mentha aquatica*) の精油」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』29巻2号67–75（1993）.
- 「ヒメハッカ (*Mentha japonica* Makino) の自殖株の精油」共著『日本農芸化学会誌』67巻2号145–147（1993）.
- 「Piperitoneを主成分とするニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の精油」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』30巻1号13–20（1993）.
- 「セスキテルペンアルコールを含有するミズハッカ *Mentha quatica* の新成分系」共著『日本農芸化学会誌』67巻10号1417–1419（1993）.
- 「セスキテルペンアルコール成分系ミズハッカ自殖株の精油」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』30巻2号17–27（1994）.
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の精油成分—北海道クサハッカの自殖株の精油—」『名古屋学院大学論集（人文・自然科学篇）』31巻1号1–19（1994）.
- 「セスキテルペンアルコール系ミズハッカ (*Mentha quatica*) 自殖株の精油成分」共著『日本農芸化学会誌』

- 68巻11号1567-1570 (1994).
- 「ニホンハッカ (*Mentha arvensis*) の精油成分—ピペリトンオキシド-メントン系自殖株の精油」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **31**巻2号63-84 (1995).
- 「RAPD分析法によるハッカ属の種の同定」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **32**巻1号371-377 (1995).
- 「アップルミント (*Mentha rotundifolia*) 自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 第**32**巻2号33-46 (1996).
- 「カルボンを主成分とするベトナムハッカの精油」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **33**巻1号63-72 (1996).
- 「メントール系ニホンハッカ自殖株の精油成分」『名古屋学院大学研究年報』 9号129-138 (1996).
- 「ベトナムハッカ自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **33**巻2号47-58 (1997).
- 「オランダハッカ自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **34**巻1号1-12 (1997).
- 「アップルミント S_1 精油から単離した4種の1, 2-エポキシ酢酸メンチルの立体化学」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **34**巻1号13-35 (1997).
- 「メントール系ニホンハッカ自殖株 S_2 の精油成分」『名古屋学院大学研究年報』 10号67-77 (1997).
- 「アップルミント自殖株 S_2 の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **34**巻2号7-20 (1998).
- “Two New Stereoisomers of 1, 2-Epoxymenthyl Acetate from Self-Pollinated Plant Oils of *Mentha rotundifolia*”
『*Natural Product Letters*』 Vol. **11**, No. 1, 161-165 (1998).
- 「市販ペパーミント考」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **35**巻1号1-10 (1998).
- “Inhibition of Acetylcholinesterase Activity by Essential Oils of *Mentha* Species” 共著『*Journal of Agricultural and Food Chemistry*』 Vol. **46**, No. 9, 3431-3435 (1998).
- 「メントール系ニホンハッカの自殖株 S_3 の精油成分」『名古屋学院大学研究年報』 11号85-96 (1998).
- 「オランダハッカ自殖株 S_2 の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **35**巻2号1-10 (1999).
- 「アップルミント自殖株 S_3 の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **36**巻1号1-10 (1999).
- 「コルシカミントとペニーロイヤルの自殖株の精油成分」『名古屋学院大学研究年報』 12号29-44 (1999).
- 「ベトナムハッカ自殖株 S_2 の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **36**巻2号71-80 (2000).
- 「ナガバハッカの自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **37**巻2号1-10 (2001).
- 「ベトナム産スペアミントとその自殖株の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **38**巻2号11-20 (2002).
- 「ナガバハッカの自殖株の精油成分 (その2)」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **38**巻2号21-30 (2002).
- 「ペパーミントの倍数体とその自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **39**巻1号19-28 (2002).
- 「ペパーミントの自殖株の精油成分」『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **39**巻2号11-30 (2003).
- 「*Mentha Gattefossei* Maire の自殖株の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **40**巻2号9-18 (2004).

- 「美野里産ヒメハッカ (*Mentha japonica* Makino) とその自殖株の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **41** 巻2号21-37 (2005).
- 「各地産ヒメハッカ (*Mentha japonica* Makino) の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **42** 巻2号19-31 (2006).
- 「ヒメハッカ (*Mentha japonica*) の自生地周辺に野生する *M. arvensis* タイプのハッカの精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **43** 巻2号15-22 (2007).
- 「北海道に自生する *Mentha arvensis* の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **44** 巻2号1-6 (2008).
- 「リナロールを主成分とするハッカの精油」共著『名古屋学院大学研究年報』 21号1-8 (2008).
- 「北海道の湿原に共生する *Mentha japonica* と *M. arvensis* タイプのハッカの精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **45** 巻2号1-8 (2009).
- 「北海道の湿原に自生する *Mentha japonica* と *M. arvensis* の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **46** 巻2号1-9 (2010).
- 「福島県に自生するヒメハッカ (*Mentha japonica* Makino) の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **47** 巻2号1-8 (2011).
- 「富士山麓周辺に自生するヒメハッカ *Mentha japonica* Makino の精油成分」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **48** 巻2号1-6 (2012).
- 「ヒメハッカ *Mentha japonica* Makino の生育環境による形態変化」共著『名古屋学院大学論集 (人文・自然科学篇)』 **49** 巻2号1-5 (2013).